



天草洋(頼山陽)

かつら子

雲か山かと眺むれば

それかあらぬか奥か越か

水か空かもわかぬまで

同じ色なる青みどり

故郷遠くへだて来て

天草洋に船はてぬ

夕日は沈む西のはて

烟はなびくとまのかけ

沖を遙かに見渡せば

魚は波間に跳りつゝ

太白星はさながらに

月の如くにかいやくさぬ

のこりの薔薇(トーマス、ムーア)

全 人

夏の終に咲き残る薔薇の花こそあはれなれ

なれがいとしき友どちはなべて跡なくなりけり

共にうつろふ色を耻ぢかたみに語り慰めて

夏の名残を惜まんもよるべなき身をいかにせん

二